

//Topic//

「はあとの木マルシェ + vol.15」を 訪問してきました！

7月29日（火）に東京都豊島区役所内のとしまセンタースクエアにて開催された、豊島区内の障害者施設の生産品の販売会「はあとの木マルシェ + vol.15」を訪問してきました。「はあとの木マルシェ +」は、年に2回、15の事業所が集まり開催されています。今回は、東京福祉大学の学生ボランティアさんやキッズマルシェのみなさんが参加・コラボレーションして盛り上げ、会場には笑顔があふれていました！

「はあとの木」って？

はあとの木はパンや焼き菓子、雑貨などを販売している豊島区内の障害者福祉施設のネットワークです。みなさまに喜んでいただけるグッズを作り、障害のある方たちの収入の増加につながることを目的としています。「はあとの木マルシェ」は障害のある方たちの社会参加や地域とのつながりを提供する機会にもなっています。商品だけではなく、作り手の想いや背景を届けられるように活動しています。年に2回開催している「はあとの木マルシェ +」は企画から運営までのすべてを自分たちで行い、はあとの木最大のイベントとなっています。

～はあとの木運営委員会より～

はあとの木は2008（平成20）年に7つの事業所で設立され、現在では15の事業所で運営しているそうです。毎月の運営委員会、年に5回の全体会が開催され、活動計画に始まり、それぞれのイベントの内容について

話し合ったり、事業所間の情報交換なども行っています。活動としては、「はあとの木」新聞の発行、はあとの木ミニマルシェ（毎週水曜日と金曜日のお昼の時間帯に、豊島区役所4階カフェふれあい前で生産品を販売）、また、カフェ前には常設の商品棚もあります。

豊島区役所の障害福祉課就労支援グループがはあとの木の活動をサポートしており、マルシェ + ではチラシを配布したり会場内で協働したりしている姿が印象的でした。

*

それぞれの地域で様々な障害者の社会参加について取り組みがあると思います。今回は豊島区にスポットをあてて行政と連携した活動をご紹介します。豊島区役所の障害福祉課就労支援グループからも、マルシェも含めた取り組みについてご寄稿いただきました。





「はあとの木マルシェ+ vol.15」会場の様子

豊島区の社会参加促進の取り組み

「はあとの木」には、マルシェ+やミニマルシェの他にも、IKE・SUNPARK（としまみどりの防災公園）で実施するファーマーズマーケットや、巣鴨の地蔵通り商店街で実施するイベントに出店するなど、地域に根差した取り組みにも積極的に参加いただいています。これまでも多くの皆様に愛されるブランドとして確立してきたところではありますが、今後もさまざまな場面をととして、販売や周知の機会をご提供していきます。

豊島区内の障害者福祉施設のネットワークである「はあとの木」の活動が円滑に進むよう、豊島区障害福祉課就労支援グループでも支援を行っています。区役所内だけでなく、区民の皆様に、「はあとの木」の情報が行き渡り、関心を寄せていただけるよう周知活動を実施していきます。区のホームページにも掲載していますので、ぜひご覧ください。

また、12月3日から9日までの障害者週間に合わせて「TOSHIMA disability week」の取り組みを行っています。より多くの方に、障害者福祉施設の製品に関心を持ってもらえるよう、障害者就労施設等で作成されたアイテムを、一つからでも身に着けて過ごすというキャンペーンです。障害者施設で製作した製品を、より多くの方に認識して、手に取ってもらい、その輪が広がっていくことを願っています。

この他にも、障害者の工賃（収入）向上を目指して、豊島区共同受注ネットワーク「TOSHIMAX」の取り組みを2023（令和5）年度から行っています。注文量が多かったり、細かい調整が必要、といった理由で一つの事業所では対応が難しい仕事を、事業所同士が連携しながら行うことで受注可能な体制を整えています。はあとの木は自主製品の製作・販売を担っていますが、豊島区共同受注ネットワーク「TOSHIMAX」は主に軽作業等の発注数拡大に努めています。

今後も、豊島区共同受注ネットワーク「TOSHIMAX」と「はあとの木」が連携できる体制を整えながら、障害者施設等で就労する障害者が、良質で安定的な仕事を確保できる取り組みを、豊島区全体で継続していきます。

豊島区福祉部障害福祉課 就労支援グループ（豊島区障害者就労支援センター）